

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に真摯に取り組む生徒が多いが、漢字や文法などの基礎・基本的な内容が定着しきれていない生徒が少数いる。家庭学習などでの反復学習や課題の見直しなどの習慣付けが必要である。 ・「学力向上を図るための調査」では、国語の授業の内容について「どちらかといえば分からない・ほとんど分からない」と回答した生徒が10.5%いた。 ・読書の習慣が身に付いている生徒とそうでない生徒がおり、読解力に差がある。 ・相手の意見を聞き、根拠を挙げて自分の意見を述べるなどの言語活動をどのように取り入れたり、進めたりするための工夫が必要である。 ・「全国学力・学習状況調査」において、都の平均正答率をおおむね5%上回っているが、「知識及び技能」における「我が国の言語文化に関する事項」は0.2%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習ノートを活用し、定期的に小テストを実施することで、自身の理解度を確認するとともに、漢字学習の習慣を身に付けさせる。また、教科書の補助学習教材やワークシートなどを課題として活用することで、家庭学習の定着を目指す。 ・月毎のテーマによる図書一覧を廊下に配架したり、中学生にお薦めの図書を紹介したりすることで、主体的に読書に取り組むよう指導していく。 ・1学年のブッククラブ、2学年のビブリオバトル、3学年のブックトークを通して、読書活動の拡充を図る。 ・1学年のスピーチ、2学年のパネルディスカッション、3学年のブックトークおよびワールドカフェの指導を軸に、読書及び根拠をあげて自分の意見を述べる言語活動を授業へ取り入れる。 ・書写の指導を中心に、楷書・行書の特徴を理解したり、自分の書いた文字を客観的に見直したりする時間を設ける。 	<p>定期的に漢字テストを行っている。また、グループ学習や言語活動（意見交換の授業）を行っている。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果をみても、基礎・基本の定着に個人差が広がり、底辺層が増えている。 ・講義形式に偏りがちで、グループワークなどの活動や発表の機会が少ない。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、授業内容がほとんどわからないと回答した生徒が7.3%を示し、都の平均より高かった。特に1学年が9.1%と高い数値を示した。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、どちらかといえば得意でない・得意でないと回答した生徒が合わせて56.4%を示し、都の平均より高かった。特に2学年が59.4%と高い数値を示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るために、単元ごとに小テストを実施し、生徒の理解度を常に把握し、結果が思わしくない生徒に対しては、補習や再テスト、eライブラリによる復習を行うなど支援を増やしていく。 ・板書ばかりの講義形式の授業展開だけにならないよう、ワークシートや視聴覚資料を効果的に活用する。 ・生徒に、知識や考えたことをまとめさせて、それを文章化し発表させる機会を増やす。 ・文献資料、地図、写真などの資料を多く取り入れ、既習知識と結び付けながら考えさせる機会を増やすなど、思考・判断・表現力の向上に努める。 ・社会に対して苦手意識をもっている生徒が多いため、多くの生徒が興味・関心をもてるように、時事問題を多く取り上げ、学習意欲を高める。 	<p>ワークシートを中心に、自分の意見や考えを表現できる機会を増やしている。</p>

<p>数 学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本が定着しきれていない。 ・全体的には授業に主体的に取り組んでいるが、受け身な生徒もいる。 ・問題を自分で解決しようとする生徒が増えてきた。 ・発展的な内容に関する取組を苦手としている生徒が多い。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、授業内容がほとんどわからないと回答した生徒が6.4%いた。特に2学年生徒では10.8%と高い数値になっている。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、どちらかといえば得意でない・得意でないと回答した生徒が合わせて56.4%いた。 ・「全国学力・学習状況調査」において、都の平均正答率を概ね5%以上上回っているが、観点別における「思考・判断・表現」及び問題形式における「記述式」の正答率が1.5%しか上回っていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解できていない部分を分析し、練習プリントを与え、繰り返し演習を行う。 ・受け身な生徒、自力だけでは演習に取り組めない生徒については、学力向上支援講師や生活支援員と連携し、授業の中で個別に指導する。 ・個々の理解力や定着具合に応じた発問を設定し、主体的に考え、積極的に発言できる姿勢を身に付けさせる。 ・できたことに対して評価し、達成感や自己肯定感を高める声掛けを行うことで、苦手意識をなくしていく。 ・基本的な計算の部分で同じような間違いを繰り返す傾向があるので、同じ系統の問題を繰り返し解かせていく時間を設ける。 ・文章問題などの発展的な問題に関しては、立式を苦手としている傾向があるため、問題文を読み取る力を向上させるために、同じパターンの問題を繰り返し解かせていく指導が必要である。特に、証明などの記述式の問題については、繰り返し取り組ませていく必要がある。 ・的確なコース分けを行う。学力向上支援講師と連携し、生徒が質問しやすい状況を作る。 	<p>多くの生徒が主体的に取り組めてきた。習熟度別少人数授業で適切なコースを選択しており、標準コースでは学力向上支援講師に積極的に質問している。</p>
<p>理 科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した知識を日常生活に関連付けて科学的に理解することに課題が見られる。 ・基礎的な概念や原理解法則の理解が不正確で、自然の事象について正しい解釈を行うことに課題が見られる。 ・『児童・生徒の学力向上を図るための調査』において、授業内容がほとんどわからないと回答する生徒の割合が、学年が上がるにつれて増える傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験などを通じて習得した知識を身近な事象に関連付け、日常生活との関わりの中で科学的に思考する学習活動を繰り返し設定する。 ・観察、実験の結果やその分析、日常生活における事象など、自ら体験、体感したことを通じて基礎・基本の定着を図る。また、単元のまとめや定期考査を区切りとし、基礎的な概念や原理解法則を復習できる時間を設定する。 ・エネルギー、粒子、生命、地球の各分野の関連を踏まえ、既習の学習内容の復習を含めた学習活動を行う時間を設定する。また、話し合い活動の中で、他者の意見や気づきを共有する時間も設定する。 	<p>自然事象を通じて基礎・基本、原理・原則を考える指導を繰り返すことにより、身近な自然現象を学習内容と関連付けて考える生徒が増えつつある。</p>

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね授業には意欲的に取り組んでいる。さらに主体的な活動を活発に行うために、基礎・基本の内容を定着させる。 ・音楽用語、読譜力などについて、繰り返し、確実に理解させる。 ・与えられた課題だけにとどまらず、主体的により深く曲を分析する姿勢を身に付けられるよう、自ら考え、学習していく力を付けさせる。 ・器楽について、基本的奏法を身に付けさせる。 ・個に応じた指導ができるように、生徒理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の基礎として、歌唱では声の出し方、器楽では構え方から指導し発展に繋げていく。また、楽典についても、プリントなどを作成・利用しながら、基礎から確認する。 ・意欲をもって取り組んでいけるように、教科書などの教材と合わせて、様々なジャンルの曲を取り入れ、授業に興味・関心をもてるようにする。 ・パート練習を中心に、声の出し方などの個別指導をしながら、生徒の実態を把握し、個々の理解に努める。 ・器楽においては、一人一人の技術や進み具合を把握して、個々に合った進捗で、グループ活動、ペアワークを取り入れながら課題を進めていく。興味・関心をもたせ、楽しくできるようにする。 	<p>授業の中で、目標と振り返りを確認することで、その時間の活動を整理でき、次回にはより主体的な態度で授業に臨めるようになっている。</p>
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮した基礎的な用具の使い方を身に付けさせることができた。 ・ポスターカラーの特性を理解し、道具を適切に使っているが、まだ定着が十分でない面もある。 ・透視図法の基本とポスターカラーの特性を理解することができた。しかし、発想したことを順序立てて紙面に描くことはまだ苦手である。 ・デッサンの基本を理解することができたが、自分のイメージしたことを表現できるようになるために、引き続き実制作を通して学ぶ必要がある。 ・1年生の50%以上の生徒が、授業がよくわかり、充実した時間が過ごせたと答えている。 ・3年生の50%以上の生徒が積極的に質問しており、意欲がある。同様に、50%以上の生徒が、学んだことを自分の作品に取り入れ表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで、ゆっくりと丁寧に指導していく。 ・複数の資料を用意するとともに、適切なタイミングで生徒に提示し、作品に生かせるようにしていく。 ・色や形の美しさを発見し、配色や構成の効果を考えながら平面や立体で表すことができるよう指導していく。 ・自分らしいもの、人とは違うものを作ることを意識させ、自分の感じたことや考えたことを意図的・計画的に表現させる。 ・教科書や生徒作品、名画、映像など、複数の作品を鑑賞し、感性・表現の多様さを学ばせる。また、作品に自分の感性を反映させられるように指導していく。 ・制作に興味をもてるように、モチーフやテーマの設定を題材によって変える。 ・美術室の教材を充実させ、各制作で有効活用できるようにすることで、発想の幅が広がるようにしていく。 	<p>レタリング字典、配色辞典など資料を多く提示している。また、個別指導に重点を置き、授業ごとに全員1回は制作のアドバイスをしている。鑑賞は時代の流れに沿って行い、わかりやすく提示している。様々なエピソードを交え講義している。</p>

保健 体 育	<p>【体育分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育に興味や関心をもつ生徒は多いが、「走る」「投げる」「とる」「跳ぶ」など基本的な運動能力が不足している。 ・筋持久力や全身持久力の不足とともに、物事に継続して粘り強く取り組む姿勢が見られにくくなっている。 ・水泳や器械運動などの専門の技術を必要とする個人種目に対して、苦手意識が強い。 <p>【保健分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的には授業に主体的に取り組んでいるが、受け身な生徒もいる。 	<p>【体育分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な運動能力（持久力・瞬発力・ジャンプ力・スピード）を養うために腹筋、背筋、腕立て、スクワットを継続的に行う。 ・筋持久力や全身持久力を養うために、バービーやランニングを継続的に行う。 ・自己の課題を明確にし、次回の活動への意欲を高めるために、個人の振り返りやグループでの話し合いの場を設ける。 ・水泳や器械運動など生徒間で技術の差が大きく出る個人種目に関しては、技術レベルに応じて、グループ分けをして授業を進めていく。 <p>【保健分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や身近な健康問題など具体例を多く挙げ、生徒が関心をもって授業に取り組むことができるようにする。 	<p>【体育分野】</p> <p>多くの生徒が個人やグループでの活動に、主体的に取り組めてきた。初めと比べ、トレーニングの成果が現れてきた。</p> <p>【保健分野】</p> <p>多くの生徒が身近な問題として捉え、主体的に取り組めてきた。</p>
技 術 家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒は主体的な姿勢で学習に取り組んでいる。しかし、実体験不足から技能や思考・判断・表現に関する力が不十分だと思われる。 ・基礎・基本の内容を十分習得させ、さらに生活に生かす力を身に付けさせる題材や指導方法を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に生かせる力を身に付けさせるために、日常生活と関連付け、より実践的・体験的な製作と実習を多く取り入れた授業を考える。 ・製作を通して仕事の楽しさや完成の喜びを味わえるように工夫する。生活に必要な技能の定着を図る。 	<p>多くの生徒は主体的な姿勢で学習に取り組んでいる。思考・判断・表現が見られるようになってきた。</p>

- ・基礎・基本の定着が不十分な生徒がいる。
- ・スピーキングについて、ほとんどの生徒がペアワークやグループワークに意欲的に取り組んでいる。一方で、一問一答形式で会話が終わってしまう場合もあるので、発展させる力を付けることが課題である。
- ・リーディングについて、初見の長文読解を苦手とする生徒がいる。
- ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、どちらかといえば得意ではない・得意ではないと回答した生徒が合計40.9%いる。

- ・語彙や文法など、既習事項を計画的に繰り返し使わせたり読んだり聞いたりする場面を設定する。また、家庭学習でも繰り返し練習させる。
- ・ペアワークの導入の際に、予想される質問や答えなどを、生徒と教師のやりとりの中で提示してイメージを膨らませたりインプットを増やしたりしてから練習に入らせることにより、表現力の向上を図る。ペアワークが終わったら、良い表現を全体で共有したり、どのように言うか迷った表現を全員で考えたりして表現の幅を増やす。
- ・教科書の Let' s Read やリスニングスクリプトなどを活用したり、様々なジャンルの文章に触れさせたりしながら、読解のポイントを身に付けさせる。また、質・量ともに徐々に難易度を上げ発展的な文章も読めるような力を身に付けさせる。
- ・4技能のどこに得意・不得意を感じているのか活動や振り返りシートなどを活用して分析させ、それぞれに必要な学習や練習に意識して主体的に取り組ませる。また、振り返りシートへのコメントなどを通して適切な取組が行えるように支援する。

個々の習熟に応じた指導や振り返りシートなどの活用を通して、さらに生徒が主体的に学習に取り組めるよう授業改善を進める。